

<金標準、円安の恩恵を受けた高止まり・・・>



(出所：オアシス)

2024年の金価格は、米国の金融緩和や安全資産としての需要や世界の中央銀行による持続的な買い入れが支援材料となり、NY金は27%の値上がりを見せて終わる可能性が高い。特に一時買い手控えた中国人民銀行の外貨準備高に占める金の保有量が7ヶ月ぶりに増加するなど、人民元の対ドルに対する安値追いが影響した動きに思える。特に来年は、トランプ次期大統領が1月20日に47代大統領に就任する事から、選挙公約であった中国に対する関税60%へ引き上げる動きが、市場におけるリスク要因であり、またビットコインの動向にも目が離せない。特にパウエルFRB議長は「ビットコインはドルでなく、金価格との相関性が高い」と述べるなど、ビットコインの下落は金価格を押し上げる要因にもなる。また金標準先物は、日米の金融政策の違いを受け、為替市場で円キャリーの復活から一時158円台を試すなど円建て金標準先物でも13496円まで高値を試すなど2025年は円安の動きに合わせて史上最高値を更新する値動きに注目が集まると思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足のMACDでは、MACAが切り上げながら、シグナルも切り上げている。RCIでは短期が切り上げながら、長期も切り上げている。ただMACDもRCIも乖離幅が縮小しており、目先の修正には注意が必要に思え、年明け早々の13200円には注意したいと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,585,000 円(2024 年 12 月 30 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 71,280 円(2024 年 12 月 30 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会が開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>